

# 第50回日本のうたごえ全国協議会総会

## 方針

### はじめに

昨年11月に石川で開催された「2017年日本のうたごえ祭典Eいしかわ・北陸」(以下、いしかわ祭典)は、3日間でのべ13200人が集い、「つなごういのち つくろう平和世(ゆ)」をサブタイトルに、北陸の郷土芸能・文化を堪能し、地元の音楽家、全国に誇るオーケストラ・アンサンブル金沢(以下、OEK)、そして地元・全国の協働でうたごえを響かせ、大成功をおさめることができた。

2013年に発足した石川のうたごえ協議会の力は決して大きくはないものの、歌を通して広く「平和と連帯」をよびかけることで、新たな出会いと力を生み出すことができた。

1948年、関鑑子の提唱により、敗戦の焼け野原の中からわき起こった「うたごえ運動」は、本年創立70周年を迎えた。この70年の間、「うたごえは平和の力」を合言葉に、国民の生活と闘いに結びつき全国に広がり発展してきた。

うたごえ運動が今進めている「4つの止」(戦争法廃止、辺野古新基地建設阻止、原発停止、核兵器禁止)を実現するためにも、私たちは憲法の心をうたう「歌う日本国憲法請負人」として、全国津々浦々でうたごえを通じた共同の輪を大いに広げていくことが重要になっている。

今年、うたごえにとってもこれまでになく一大記念事業達成への課題とあわせ、情勢的にも大きな正念場を迎えている。それは一つには、

本年をステップとしてさらなる組織拡大をめざす2023年ビジョン計画の足がかりを築き、70周年記念事業計画を全国の力で成功させることとの正念場であり、いま一つは、9条改憲案づくりに拍車をかける安倍政権の暴走をこれ以上許さないための正念場である。

来年は、3月からの統一地方選挙、4月末には天皇退位、新天皇の即位、7月には参院選と、政治日程が目白押しの中で、自民党幹部は「(改憲を)やるなら今年」と述べ、改憲案とりまとめ論議を加速させている。

私たちうたごえは、この安倍9条改憲を許さず憲法を活かそうと、「全国市民アクション」が呼びかけている3000万署名を推進するため、昨年末に「安倍9条改憲NO! 全国うたごえアクション」を結成して、本年5月までに2万5千人の署名目標を掲げた取り組みを進めている。

今年は、「4つの止」にかかわる日本の進路と国民の未来がかかっている歴史的な年であり、9条をめぐる激突の年でもある。この一年を私たちうたごえも、希望と展望を胸に、その運動の真価が発揮できる出番の年にしたい。

(戦争法廃止で未来を明るくする年に)

安倍政権下で、軍事費拡大が止まらない。軍事費は「戦争する国づくり」を財政的に支えるものであり、15年度以降、最高額を更新し続け、18年度予算案では過去最大の5・2兆円となった。その一方で国民1人当たり数百円といわれる文教予算は4年連続でマイナス、生活保護をはじめとする社会保障費は1300億円の削減となっている。米国が誇る最新鋭戦闘機F-35A(6機分1079億円)などの兵器の調達や、軍学共同をすすめる研究費には惜しみなくお金をつぎ込みながら、貧困に苦しむ国民の予算は切り詰めるという逆立ち軍拡予算の暴走を止めるためにも、戦争法や秘密保護法、共謀罪法の即時廃止を求め、憲法守れの声を一層大きくしていくことが急務となっている。

日本のうたごえ全国協議会と音楽センター、労音とで事務局を担っている「戦争法に終止符を! 音楽人・団体の会」は、専門家とともにこれまで3回の取り組みを展開してきたが、今年さらなる運動を大きく広

げていくことが求められている。

〈辺野古新基地阻止で未来を開く年に〉

国土の1%にも満たない島に、日本の74%の米軍基地がある沖縄。昨年10月、普天間基地所属の大型ヘリが東村高江の民間地で炎上し大破。12月には同基地に隣接する小学校校庭への窓落下、保育園への部品落下が相次いだ。小学校には重さ8kgに近いヘリコプターの窓が、児童から10mの至近距離に落ちた。一步間違えば大惨事になるところだが、構造上の問題はなく、人的ミスだとし、米軍は一週間も経たないうちに飛行を再開、政府もこれを容認した。普天間基地の撤退、辺野古新基地建設の是非を最大の争点に、今年は、県内17市町村で首長選挙があり、9月前後には30市町村で議員選挙が続く「選挙year」となる。とりわけ、2月の稲嶺進名護市長の3選と、11月の翁長雄志知事の再選を目指し、保革の枠を超えた「オール沖縄」候補勝利のため、全国からもあらゆる支援を結集して基地撤廃運動を強め、安全な空を子どもたちに一刻も早く手渡さなければならぬ。

〈原発ゼロで未来を輝かせる年に〉

東日本大震災から今年で7年。福島県内外に避難している人は約6万人にもものぼり、2020年を前に、今も、「収束」にはほど遠い状況だと海外メディアは伝える。2020年は、安倍首相が福島は「コントロールされている」と宣言して勝ち得た東京五輪の開催年である。福島原発敷地内のタンクにためている放射能汚染水は間もなく100万トンに達する。さらに、地下水が汚染されて原子炉建屋に流れ込むのを防ぐための「凍土壁」が造られたが、土を冷やすための電気代、設備点検費などの経費は年間10億円を超えるといわれている。

昨年、四国電力伊方原発3号機について、広島高裁は「巨大噴火による影響が小さいとは言えない」と、広島地裁判断を覆して運転を差し止める決定を命じた。政府は2030年の全電源のうち原発の割合を20%〜22%にする方針を掲げて30基以上の原発の再稼働を目論んでいる。福島原発事故後、高裁が運転差し止めを命じたのは初めてであり、原発停止にむけた運動に大きな弾みとなった。しかし一方で昨年末、新

潟の柏崎刈羽原発6、7号機が再稼働の前提となる新規制基準に「適合」とされた。米山隆一新潟県知事は福島事故の検証がないもとでは認めないとしており、福島事故を起こした東電による原発再稼働を絶対に認めるわけにはいかない。

〈核なき世界で未来をつなぐ年に〉

核兵器禁止条約が、昨年7月に122カ国の賛成多数で採択された。9月に署名が開始され、すでに56カ国が署名、4カ国が批准している。条約採択への運動が評価され、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）が12月、ノーベル平和賞を受賞した。授賞式では初めて被爆者が演説に立った。13歳のとき広島で被爆した体験を語ったサーロー節子さんは、「核兵器は必要悪ではありません。絶対悪です。私たちの警告を心に留めなさい」と訴えた。欠席した米ロ英仏中ほか核保有国の指導者たちは、真摯に耳を傾けなければならない。今後、発効にむけて唯一の被爆国の責務として日本政府が署名することを強く求めると同時に、市民とともに国民の力で禁止条約に署名する政府をつくる運動が必要となっている。うたごえも取り組んでいる「ヒバクシャ国際署名」は昨年、年間目標である2万5千人を超過達成することができた。今年は条約の早期締結が念願であり、署名を一人でも多くの人に広げる取組みが急務となっている。

〈9条改憲許さず、共同広げる年に〉

直近の日本世論調査会では、9条改憲について「必要はない」が53%で過半数となった（国会論議では『急ぐ必要がない』が67・2%）。もし、9条に自衛隊が明記されることになれば、戦力を持たないとした9条2項は空文化・死文化し、自衛隊の海外派兵に際限なく道を開くものとなる。いまこそ、日本を「戦争できる国」に変えようとする安倍首相の野望を打ち砕くために、3000万人署名を大きく成功させることが重要である。ルポライターの鎌田慧（さとし）さんは、「9条を変える」ということは、戦後の歴史を捨てることだ」と語る。

「全国うたごえアクション」結成のもと、全国的規模で歌をつくり広げながら署名運動を展開し、世論を広げる中で「4つの止」を実現し、

さらには5つ目の「止」として「憲法改悪・安倍暴走政権に止(とど)め」の運動に連動させていくことが全ての運動の幹となっている。

(70周年記念事業を成功に導くために)

一昨年の10月に第1回70周年記念事業委員会を開催し、これまでに9つの記念事業を計画、取り組みを進めてきている。これら記念事業を全て成功させるうえで、私たちがいますべきことは、運動にとつて手を組むべき必要な三つの力を大いに発揮すべきときである。それは、憲法の力、市民の力、文化の力である。憲法を「護る」から攻めの「活かす」方向に、幅広い市民とともに協力共同し、文化的にたたかひを広げていくことが切に求められている。これら記念事業を成功させ、活動方針を旺盛に実践していく中で70周年から75周年につなげていく実りある年として、今年も一年全国で大いに歌い交わしましょう!!

## 2017年度 活動のまとめ

### 70周年記念事業

「うたごえ2023ビジョン」を柱に、70周年記念事業を取り組んだ。安保法制廃止、原発停止、辺野古基地建設阻止の「3つの止」をテーマに創作曲の募集を行い、57作品が応募。テーマ詞から「約束のうた」(きむらいずみ・詞/たかだりゆうじ・曲)、「原発に頼るまい」(石原いつき・詞/武義和・曲)、「原発に頼るまい」(石原いつき・詞/長森かおる・曲)の3曲、自由詞・曲として「平和のベル」(久保木力・詞/井野口敏子・曲)の4曲が推薦。全応募曲はHPで紹介。

6人の作曲家によるニューアレンジ合唱曲集「みんなのうた」を出版。いしかわ祭典での演奏ほか、各地の合唱団でもとりあげられ演奏され、曲集も普及されている。出版を記念して「6人の音楽家によるシンポジウム」を開催。

記念作品としては憲法をめぐる今の情勢の中、混声合唱組曲「こわしてはいけなく無言館をうたう」(窪島誠一郎作詩・池辺晋一郎作

曲)を70周年普及曲として位置づけ、いしかわ祭典はじめ、各地で演奏。ニュースも発行して演奏普及した。

また、シンボルマークを制定。70周年祝賀提灯広告うたごえ新聞「万燈祭」を取り組んだ。創立記念日2月10日にあたる本総会時に、記念レセプションを開催。高橋正志元会長執筆によるうたごえの歴史を綴った「うたごえは生きる力 いのち 平和 たたかい うたごえ70年の歩み」を出版。

70周年記念日本のうたごえ祭典は、東京で準備が進んでいる。

### 1 うたごえを創り広げる活動

①「憲法改悪」に反対し、戦争法廃止、辺野古新基地建設阻止、原発ゼロ、核兵器ノーのうたごえ

うたごえでヒバクシャ国際署名を会員数の5倍集める目標で取り組んだ。長崎の取り組みは被爆地のうたごえとして運動をけん引した。埼玉合唱団は韓国公演でも街頭署名を取り組んだ。年間では共同行動含めて26331筆(1月13日現在)と目標数を突破した。

8・12沖縄県民大会での沖縄のうたごえ中心の行動に続いて、9月に第3次うたごえ沖縄行動として「ストップ! 辺野古新基地建設 命を守る音楽とトークのつどい」を行った。大阪の「ちばりよく沖縄」は現地に足を運んでつくった歌を地元で歌い支援する活動も行った。和歌山の「うたごえオールスターズ」は創作曲「辺野古崎ぬ風に吹かり」を歌って支援など、全国のサークル・合唱団も沖縄に足を運んでいる。「オール沖縄 Peace Song」ポケット歌集や歌劇「沖縄」CDも活用され、売上からうたごえ沖縄基金が寄せられた。

3月提案された共謀罪(「テロ等準備罪」)法案に、会長談話を出し、反対のうたごえ行動を。憲法集会や19行動、安倍改憲NO! 3000万署名の取り組みとあわせての街頭行動など、改憲NO!のうたごえを展開した。憲法を歌った70周年普及曲「こわしてはいけなく」は、

祭典での抜粋演奏をはじめ各地で演奏された。また、戦争法に終止符を！音楽人・団体の会も、呼びかけ人の方に次の集いの準備を進めてもらっている。

東日本大震災の被災地支援では、南部合唱団（東京）が地元と実行委員会をつくって「浜通り復興の集い」を取り組み、レガート（大阪）は全国に呼びかけ、国鉄のうたごえなども参加して「響 a i コンサート」を開催した。その他、継続して全国で取り組まれた。いしかわ祭典では、「福島をわすれない 原発 NO！」のステージが全国の原発立地県と福島の仲間を中心に 10 都道府県の参加で歌われた。

② 「いつでも、どこでも、うたごえを」を合言葉に、歌う喜びをひろげる活動

いしかわ祭典で、小松うたおまい会が中心となつて、地域サークル合同が取り組まれ、うたごえの合同ステージを実現した。シニア合同でも年金者組合のうたごえをつくって広げた。また、大うたごえは、全国や初めて参加した石川の人たちの歌いたい要求をくみ上げた。

3・1 ビキニデー、3・8 国際女性デー、メーデー、憲法集会、母親大会、原水爆禁止国民平和行進と世界大会、平和大会など、各種の運動の中でうたごえを響かせた。東京の 5・3 憲法集会ではユキヒロさんと青年の「HEIWA の鐘」大合唱が取り組まれた。原水爆禁止世界大会・長崎では、九州のうたごえが連帯して合唱構成「ヒバクシャと共に」を上演した。日本平和大会では、国鉄広島ナツパーズが連帯して演奏した。香川では新婦人高松支部コーラスえふろんが、原水禁四国大会で香川で、好井敏彦さんの被爆ピアノ演奏と共演した。

③ 多くの人が「こぞうたごえを創り出す」愛唱歌を創り出す

激動の情勢のなかで、「戦争法廃止・改憲を許さない」「ヒバクシャ国際署名推進」「うたごえ 70 周年記念創作募集」などの提起に応えた全国的な創作活動、各サークルやうたごえ協議会の沖繩行動や日本のうたごえ祭典を成功させる各分野などが多彩に展開された。特に、「一人から一人へ」（園田鉄美・詞曲）はヒバクシャ国際署名や国連の核兵器禁止条約締結を受けた平和の波行動の中で広く歌われた。JAL、IBM など争

議の中で歌を創り、闘いを広げている。

全国創作講習会は、名古屋で 4 月に 1泊 2 日の日程で開催。全国 21 人、愛知 43 人の参加。持ち寄り曲 32、持ち寄り詩 56、講習会中に生まれた曲は 32 曲、という数字の通り、昨年度より創作の垣根を下げ、参加しやすい講習会をめざしたことが実りつつある。時間的に実作に重点を置かざるを得ない中、具体的な作曲の講習への要望も出されている。また、埼玉での初の創作講習会や歌づくり、愛知での合評会形式の創作発表会など新しい動きや、新しい創り手も生まれている。

オリジナルコンサート（以下、オリコン）では、平日開催にもかかわらず 41 団体により 44 曲が発表され、年々作品が向上してきた。辺野古・高江、米軍機事故へ関心が高まる中、沖繩を歌ったものが多かったが、原発を直接テーマにした曲はなかった。また、国鉄、郵便などの職場の他、町のクリーニング屋さんを歌った曲が全国創作講習会でつくられ発表されるなど講習会から作品が各地で歌い継がれていること、時代の動きの速さに負けず、時代を風刺する視点でコミカルな作品に果敢に挑戦した曲など特筆される。

創作のすそ野を広げ、質を高め、運動を切り開く作品をさらに生み出していくために、講習会やオリコンの在り方、ソングブック、うたごえ新聞、HP などの活用について知恵を集めたい。

## 2 合唱発表会運動、地域・分野のうたごえ祭典

① 県・産別、全国の合唱発表会の取り組み

32 都道府県、8 産別、1 階層で合唱発表会が行われ、1306 団体が参加。祭典開催地石川では、津幡などで初参加団体が広がった。テーマソングをつくって広げている愛知・尾張東部、うたごえ喫茶参加者 40 人の初参加団体など広がりを作った栃木など、各地で県、地域で工夫して開催された。東京では、小編成の発表会に北海道合唱団ホームシックスを招いて小編成活動の実践を学んだ。

全国の発表会には、318団体が参加。推薦基準の緩やかな小編成は57団体と膨らんだ。今年度、一般A、Bの人数区分を変更。運営上のバランスがよくなった。8部門、並行開催が定着する中、掛け持ち出演者の対応などの課題とともに、運営、実務面での改善、マニュアル化とともに、聞き合い、学び合うという合唱発表会の原点を問う検討が、小委員会などで始まった。

## ② 地方祭典、産別祭典など

県祭典は、北海道、山形、長野、石川、三重、広島、佐賀の7県、ブロック祭典は九州ブロック、産別祭典は、教育、私鉄、国鉄、電通、医療、保育の6産別、階層では青年が開催。教育のうたごえ祭典は、うたごえサークルのない徳島で、町長、教育長も参加し子育て文化をと町ぐるみで開催。4月に全産別参加で産別会議を3年ぶりに行った。職場にうたごえをどうつなげていくかなど交流された。創作合宿を力に合唱構成「あしたのやくそく」を合同で歌った北海道。九州は豪雨災害を乗り越えて大分で合唱構成「日出生台の風はみどり」の演奏で連帯。

## ③ いしかわ祭典の取り組み

いしかわ祭典は、大音楽会5500人、特別音楽会2200人、合唱発表会・オリジナルコンサートにのべ5500人など、あわせて1万3200人の参加で成功した。

オーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）や能楽と合唱のコラボ、富山南砺平高校郷土芸能部の民舞、石川で生まれた「水の旅」などの特別音楽会。大音楽会ではニューアレンジ合唱曲集「みんなのうた」から「あかつきの空に」など全国合同、地元の子どもたち含めた和太鼓合同など。原発NO！のステージは北陸福井の連帯で行われた。大音楽会に続く大うたうた会は初参加の人も思いっきり歌った。うたごえ人口の少ない石川への、北陸の連帯、全国からの参加が支えた。

## ④ 2018年以後の日本のうたごえ祭典の取り組み

2018年のうたごえ70周年記念祭典は、東京での会場がようやく決まった。先行して企画組織の準備会が持たれ、年末には実行委員会が発足。急速に準備が進み始めた。

2019年は、京都が主催県となって開催が決まり準備会が立ちあげられた。

2020年以後については、開催候補地について祭典プロジェクトで検討が進められている。

## 3 うたごえ新聞・季刊「日本のうたごえ」

17年度活動の重点「4つの止」（戦争法、辺野古新基地、原発、核兵器）と、うたごえ新聞読者増（増紙）の「5つのシ」を軸に、各地の通信とで編集し、いしかわ祭典成功へつないだ。

「原発」では「なくせ原発3・11全国一斉行動」の送稿。各地の支援・演奏活動の通信も精力的に寄せられた。「沖繩」では県民大会や、文化・芸術を通して沖繩の心、佐喜眞美術館佐喜眞道夫館長、彫刻家金城実さんらを取材。幅広い層の寄稿で沖繩発連載企画「沖繩の叫び」は2年を経過し、注目を集めている。

戦争法では、「戦争法に終止符を！音楽人・団体の会」よびかけ人によるつどいの紹介や、漫談で憲法「改正」に抗う「笑工房」代表・落語作家小林康二さん、戦争を止めるために自作「最後の手紙」を世界にと活動する作曲家三枝成彰さんへのインタビュー。戦争法の補完となる共謀罪法案反対でも街頭行動など全国からの通信とともに、神奈川合唱団員・高橋由美弁護士に「共謀罪「うたごえ」は？Q&A」連載（4回）、洛北青年合唱団員・法学者高山佳奈子さんへのインタビュー「自由を奪う監視社会にストップ」などを特集した。

「核兵器廃絶」ではヒバクシャ国際署名活動をリードした長崎からの通信。被爆者児玉三智子さん、署名キャンペーンリーダー林田光弘さん、国連での核兵器禁止条約採択の様態を藤森俊希被団協事務局次長へのインタビューで紹介した。

うたごえ70周年記念事業の一つ、「6人の音楽家によるニューアレンジ合唱曲集『みんなのうた』」出版で、初の出会いとなった作曲家源田俊

一郎氏へのインタビュー、音楽家が一堂に会したシンポジウムの特集。

世界の視野からは、「世界の合唱は今」を長谷川冴子さん（東京少年少女合唱団桂冠指揮者、世界合唱連合副会長歴任）から、埼玉合唱団名誉団員鄭剛憲（チョンガンホン）さんからは韓国民主抗争30周年記念式典での文在寅大統領も一緒に歌った「荒野にて」が寄稿され、韓国民衆の息吹が歌とともに伝えられた。

いしかわ祭典にむけては、地元縁の多くの音楽家、識者の登場で紙面から祭典成功への力とした。

新企画の連載「エンタの広場」（執筆林一幸）は親しみやすいと好評。若者から提案の「若リーフ」は、各地の若者からの通信は活発に行われたが、シリーズとしては継続できなかった。編集部対応を含め課題を残した。

①「読み、作り、広げる」を合言葉に、紙面を創造、組織、普及の力にし、70周年に過去最高の読者を迎える取り組み

作り（通信・企画提案）では東京・大熊啓さんの企画提案による争議団とうたごえの特集「解雇3兄弟座談会」は好評。

読者拡大では、30都道府県で9000人の新読者を迎えた（1月10日現在）。拡大運動を活発にするために、組織活動者会議を開催し、経験交流と意思統一をはかった。さらに、全国支局会議を行い、読者拡大に特化した意思統一を行った結果、事務局長が先頭に立って目標を見据えた取り組みで前進している神奈川、数にこだわって支局会議で意思統一して取り組んでいる奈良などで引き続き拡大が進んだ。いしかわ祭典に向けては、岐阜が年間目標を達成した。組織会議、支局会議の成果が全国に伝播し、取り組みが進んだ。70周年祭典を意識した東京での拡大も進んでいる。

②規模の大小を問わず「うた新フォーラム」などの全国展開を計画

札幌のうた新フォーラムではうたごえ新聞創刊の頃から学び合った。奈良のうた新支局会議、神奈川のうた新担当者会議が定期的に開催され、紙面討議、読者拡大が進んだ。

③通信活動を活発にし、全国の活動経験を学びあう

通信活動では、通信数は前年とほぼ同数（通信382通、ニュース646通）。その中で、「平和の旅へ」の演奏普及など長崎の園田鉄美さんをはじめ、同・森川恵美子、静岡・松下由美子、福岡・横田律子、宮城・岡村朋子、埼玉・林和恵、神奈川・河野好行のみなさんら。20回送稿、東京・箱崎作次さんの「天竺通信」。

④季刊「日本のうたごえ」の位置づけを高め、積極的に活用し、会員構成員の全員購読をめざす

No.175と178を発行。No.175は年頭に当たり、一年の運動づくりへ、上方芸能評論家・木津川計氏の「国民的支持を得る文化のベースやさしさと笑い、平和主義」を紹介。笑いの持つ力で国民多数派を組織、と深い示唆を得た。

運動70周年へ田中嘉治会長の論文を、No.175で「うたごえ運動の原点を探る」、No.177で「70周年から75周年へのヴィジョン」を紹介。「夢と活力ある運動へ道筋を示唆」と好評。

No.176総会特集号には、いしかわ祭典で共演のOEKのオーケストラ担当副部長床坊剛氏の記念講演「30年のオーケストラ・アンサンブル金沢の歩みと新たな挑戦」を掲載し、祭典の意義をあらためて深めた。No.177は、うたごえ70周年記念普及曲「こわしてはいけなく無言館をうたう」の作曲者池辺晋一郎氏の楽曲分析を紹介。No.178は、「一人ひとりの中に民主主義を」と暉峻淑子さん（経済学博士）へのインタビューで紹介。

読者は年間、ほぼ同数。運動の創造・組織活動の力をつけるために読み深めると共に、普及が急務である。うたごえ新聞の拡大運動が進んでいるところでは季刊の読者も広がっている。

## 4 学習・教育活動

学習・教育活動をすすめる、次代を担うリーダーを計画的に育てる活動

①運動の歴史を引き継ぎ、日常の練習や活動の中での教育活動の重視、批評活動、運動の理論活動

全国各地で、サークル・合唱団をはじめとして、ソロ、デュエット、小編成、研究会など様々な形態で演奏会が開催されている。音楽祭への参加、イベントへの出演、また様々な集会以での演奏、要求団体との連携など、「うたごえ」ならではの活動も旺盛に展開されている。

日常活動では、客演指揮を招く、特別練習。音楽表現の更なる追求、経験、学習も行われ、ボイストレーニング、合唱団の声づくりも課題となっている。合唱発表会の審査委員会や座談会などでは、聴き手に届くための演奏、その選曲、また個々人の聴く力、他団体の演奏を知ることなどの重要性も指摘されている。作品の題材となる人々、現地との交流、作品を深める努力など、音楽を豊かにする活動も展開されている。また、今日的なテーマに沿って合唱曲を委嘱する、編曲する、など新たに作品も多く創られ、合唱団の音楽的成長と演奏の幅を広げている。日本のうたごえ祭典・合唱発表会はこれらを知る良い機会であり、互いに聴き合い、学び合うことが重要である。

日本のうたごえ合唱団2017は158名で結成。いしかわ祭典・特別音楽会での質の高い演奏で存在感を示し、好評を博した。全国協議会の方針のもと、演奏を目的とした自主的に参加する合唱団として、うたごえ運動の創造のひとつと、その実践から得る経験、交流は、他にはない教育的な学習の場となっている。また、「耳を澄まして」「レストラン・キヤラバンサライ」の新たな合唱作品を生み出した。

#### ②うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」の積極的な活用

うたごえ新聞では各地での演奏会の取り組みの様子や音楽会を聴いての感想、演奏会評などが多く紹介されている。合唱発表会講評、季刊「日本のうたごえ」誌上での座談会など、うたごえ運動の創造理念、専門家の指摘等、示唆に富む内容が多い。積極的に活用すること、また前年度の指摘がどう生かされているか、などの視点も重要である。日本のうたごえ祭典・合唱発表会総評での指摘、課題等は、具体的な改善点とする必要がある。

③各種全国講習会、協議会やブロック等での指揮者・指導者の交流、ネットワークづくり、サークル・合唱団・協議会の次代を担うリーダーづくりの計画をもつ

全国合唱講習会は、西日本が5月4、5日、金沢市で132名、東日本は5月20、21日、千葉市で124名の参加で行われた。いしかわ祭典全国合同曲等を講習曲としてその音楽的な理解を深めるとともに、祭典のイメージを膨らませた。西では発声講師に地元で活躍する安藤常光氏、表まり子さんを迎え、日常では得られない指導と好評。専門家との新たな協力、いしかわ祭典への出演など貴重な力となった。東でも発声と歌唱の講師に赤坂有紀さんを迎え、言葉の表現を具体的に示しながら巧みに音楽の流れに引きこむ指導で好評。日頃とは異なる音楽経験、合唱づくりを大勢が集って学び合うことは貴重で、学びの宝庫である。更に幅広い講師陣、新たなリーダーによる指導と継続、運動を前進させる選曲など、その必要性が強調されている。

指揮・合唱指導講習会（教育講習会）は、6月16、18日、長野・松本市で88名の参加で開催された。合唱特別講師と理論講座に栗山文昭氏を迎え、作品の魅力を巧みに引き出す指導で好評、貴重な話も聞けた有意義なものとなった。的確で鋭い指摘の工藤俊幸氏による指揮法特別講座、太田真季さんの発声指導、受講者の要求に合わせたコース別指揮法など、日々合唱指導に携わる指揮者・音楽リーダー、新リーダーはもとより、合唱隊としての参加者も、様々な角度からの発見、成長が実感され、貴重である。更に参加を広げること、指導者自らが求めて行くことが重要であるが、継続的な参加とともに、より早急な成長を促す更なる努力も求められている。

地域、ブロック、合唱団単位の講習会、セミナー、指揮講座等も各地で行われている。北海道、九州では合唱講習会を毎年継続して開催。それぞれのうたごえ祭典での演奏、日本のうたごえ祭典全国合同参加を支えている。北海道、九州では、祭典を地域、各県での持ち回りとして、その準備を市民運動的に進めることで、専門家との協力、共同を広げ、成果を上げている。東海のうたごえ交流会、東北のブロック交流会も継

続されている。

関西合唱団の日曜講座、京都の忠やん講座「良い歌い手が指揮者を育てる」、愛知での「まなぼ企画」等も貴重な取り組みである。大阪の合唱研究会、指揮勉強会、東京の指揮考座など各地で地道な勉強会も続けられている。次世代を担う新たなリーダーの入り口としても有意義であり、継続的な努力が求められている。

新入団員の獲得、声楽の団内発表会、外部講師による指導の回数と内容など合唱団独自の教育活動を知り合うこと。指揮者・指導者が日常の実践を報告し合い、交流し、学び合うことなど具体的に結集する機会を持ち、ネットワークづくり、情報交流等を検討し、音楽創造のあり方を深め合う、うたごえ運動における創造の特徴、良さなども明らかにし、幅広く学習を深めていく必要がある。

## 5 青年のうたごえ

①サークル・合唱団・協議会で、青年・学生とつながる活動や「学びの場」を意識的に持つ

東海青年のうたごえはブロックで集まり、平和団体や青年団体などとも協力・交流し、歌い手を広げている。長野県での合宿で学んだ満蒙開拓団の報告と映画の集いを行った。若星Z☆はアカペラ講座などを通じ、団員を増やし、黒川郡連合青年団主催のコンサートにも友情出演し、交流を深めている。石川青年合唱団「ハッピースマイル」はいしかわ祭典を通じ発足し、祭典後も全国の青年と結びつき、活動を続けている。

サークル・合唱団・協議会で議論し、担当もおき、連絡会などの活動を活発化させ、さらに広い青年との繋がりを進めることも大切である。

②仲間づくり、サークルづくりへ、団体・分野を越えたネットワークづくりを強める

3・1ビキニデーの青年企画、Rink! Link! Zero 等

静岡では青年のうたごえとして実行委員会に参加し協力した。8月の原水爆禁止世界大会にはユキヒロさんと全国の青年でメインステージで演奏。大阪では「全国うたごえ青年祭典」のおおさかの実行委員会を通じて教職員組合の青年や高校生と結びついている。

③「全国青年のうたごえ祭典」長野を青年のうたごえを活性化する場として位置づけ、青年を積極的に送り出し、いしかわ祭典につながる「全国うたごえ青年祭典」長野には、全国から約60名が参加し、いしかわ祭典へのステップとなった。ザ・イスカンドルのコンサートとの初の同時開催。合唱発表会参加も過去最高の21団体。

いしかわ祭典・青年合同ステージに向けては、本番指揮者が各地に出向き、音楽づくりを深めた。現地・全国で保育分野との協力を進めた。当日は現地・全国含め142名の青年で歌った。

## 6 サークル・合唱団・協議会づくり、ブロック連帯活動

①サークル・合唱団を新たにづくり、合唱団員をふやす活動

いしかわ祭典の取り組みを通して、開催地石川で青年の合唱団が活動を継続。京都では宮津に続き「あやべぞうれっしやうたう会」が結成。長野のイスカンドルコンサートで生まれたぞうれっしや合唱団が活動を継続。東京ではIBMの争議支援の活動を通し、合唱団結成の芽が生まれている。

京都の合唱団みなみ風は、団員も増やし、演奏会に向けた特別合唱団で50人を集めるなど各地で、研究生制度、演奏会に向けた特別団員、市民合唱団など粘り強い働きかけ、音楽の魅力でなど工夫して新しい団員を増やしている。

②合唱発表会参加団体、協議会加盟団体、うたごえ新聞・季刊読者を増やすことを、サークル・合唱団で討議し、目標を持ち、計画的に増やす活動

加盟は、2015年日本のうたごえ祭典（愛知）を機に生まれた合唱



団から岐阜・恵那空、2016年祭典(愛媛)で発足したシニアの愛媛・合唱団レントナー。継続した働きかけの中から神奈川・合唱団ビナベリー、うたごえ喫茶燦々。70周年祭典を意識した東京で、みたかカッコウ、多摩新婦人コーラス、いろそら合唱団。愛知では、守山新婦人コーラスジャスマイン、港湾合唱団星波、日進コーラスひまわり。岐阜のうたごえサークルぼっぼ、長野の長野合唱団ひるまぐず。いしかわ祭典参加を機に、熊本でがんばればアーズ。地域祭典から京都・あやべ新婦人の会「あぷりこつと」、蜂ヶ岡保育園保護者サークル「この指とまれ」。東京ニ多摩教職員合唱団は再加盟した。

うたごえ2023ビジョンを据えて議論を深め、加盟拡大が組織建設の幹と取り組んだ。合唱発表会参加団体への継続的な働きかけなど組織活動者会議で全国の経験が交流される中、役員がサークルに足を運び、うたごえ新聞購読と加盟を訴える活動などが、加盟に結んでいる。

③加盟団体500、協議会のない県での確立をめざす活動  
意識的な継続した働きかけの中で、16団体の入会があった。残念ながら3団体の退会があったが、うち1団体は再入会した。組織活動者会議での、東京・南部地域協議会で、加盟することでサークルの意識が変わった報告や合唱発表会の取り組みを通して加盟を倍加してきている奈良の報告などが全国の力になった。

佐賀の協議会準備会、宮崎や山形、栃木などで協議会結成への動きがある。祭典の取り組みなどを通して進めている。広島は、空白の島根、鳥取のサークル建設に取り組んでいる。70周年祭典を展望し、関東・東京ブロックでは東日本合唱講習会開催やうたごえ新聞読者拡大運動などブロック活動に活気が出てきた。関西ブロックは毎月の会議で、祭典など全国連帯の視野ももって活動している。

## 7 事業・普及活動

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものに

し、魅力ある企画制作と旺盛な普及でうたごえの前進の力とする。

歌集「オール沖繩Peace Song」は、現地沖繩含め、各地で沖繩支援連帯の活動の中で普及された。歌劇「沖繩」CD2枚組は、沖繩のたたかいを音楽で伝えるものとしても活用普及された。メーデー歌集は、南部合唱団など地域の労働組合との日頃のつきあいの中で広がっている。サークルで新曲をおぼえて普及する力にもなっている。「祭典曲集」は、いのちの合同ステージの曲などを中心に収録し、練習会にも活用。表紙の志田弘子さんの絵は好評。うたう会歌集828は、デジタル版を使ってのうたごえ喫茶などで活用されている。

「こわしてはいけない」は、時代の求めに答える作品として演奏普及され、あわせて曲集も普及された。また、デュークエイセスと共に演奏会を取り組んだ埼玉、愛媛などでは東京労音の協力で50余年のライブ音源によるCD「デュークエイセス珠玉のライブ」が普及された。

②全ての協議会加盟団体で事業活動が取り組めるよう事業部担当をおき、事業普及活動を活発に進める。

「すべてのサークルで事業担当者を置き事業活動を」は、積極的に進めている団体の経験を返すなど、事業普及活動活性化のための働きかけがより求められる。

③楽譜のネット配信など、インターネットを活用した取り組みをすすめ、新たな層へのうたごえ普及の力にする。

パッケージ商品、楽譜集の発行が困難になりつつある昨今、楽曲ダウンロード販売等、普及方法も考えていく必要がある。

## 8 郷土のうたと踊り

いしかわ祭典の全国郷土合同では、浅野太鼓の協力のもと、太鼓「北陸のひびき」を地元と全国から東・西郷土講習会参加者を中心に102名で演奏し、大音楽会のオープニングを飾った。

郷土講習会は、5月に西日本、6月に東日本を開催し、いしかわ祭典の全国郷土合同につないだ。

西日本は、石川・白山市で、●太鼓ユニットのMACHIKOさんを講師に、作曲して頂いた「北陸のひびき」の講習を行い、他に、加藤木朗氏を講師に民舞「番楽」の講習が行われた。

東日本も東京で、MACHIKOさんによる同曲の講習を行った。また、エイサーの「仲順流り」「唐船どーい」が、金城吉春とその門下生の講師により行われた。

いしかわ祭典・全国郷土合同は、地元の太鼓合同演奏実行委員会の綿密な取り組みで「北陸のひびき」の演奏を成功させた。また、地元と全国の交流を広げてきた。

東日本では、6月、第20回「江戸やっこまつり」を35団体650名の参加で開催。西日本では9月に、第14回「兵庫県和太鼓と民舞のまつり」が開催され、全県合同で「水軍太鼓・渦潮之曲」を演奏した。奈良蟻の会合唱団の民謡部「蟻」が独自のコンサートを開催。郷土サークルが合唱団のコンサート、各種集会で演奏するなど全国各地で郷土芸能の演奏普及活動が繰り広げられている。

全国協郷土部会の開催、郷土講習会取り組みを通じて、全国の郷土活動、経験交流が進みつつある。70周年記念日本のうたごえ祭典へ「全国和太鼓・民謡・民舞のまつり」の準備が始まった。

## 9 専門家及び他団体との協働

専門家及び他団体との情報交流、協力共同で音楽文化の豊かな発展をめざす。

原水爆禁止日本協議会との定期的な懇談会を行い、核廃絶の世界情勢や、世界大会、ヒバクシャ国際署名などの運動について交流した。全国各地の合唱団が専門家の委嘱作品を依頼するなど、ともに音楽づくりを進めた。

祭典の音楽づくり、講習会の講師、合唱発表会の審査員などで、専門家の協力を得た。いしかわ祭典での浅野太鼓の協力も特筆。「戦争法に終止符を！音楽人・団体の会」、うたごえ沖縄行動なども専門家と共に取り組みを進めた。

## 10 国際交流

世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる。

祭典でも演奏の紫金草合唱団が第12次の中国公演。大阪のロシア合唱団コスモスはボルガ下りのクルーズ船での合唱交流。11月にサム・トゥン・ソリ関西公演を京都、大阪、滋賀で。いろそら合唱団は、この間の自主的草の根交流から仁川市民文化芸術センターとの交流10周年行事を開催。埼玉合唱団は、韓国平和の木合唱団創立10周年で訪韓し共演。奈良蟻の会合唱団は1月にベトナム公演など、多彩な交流が行われた。

国際交流委員会として、4月、東京少年少女合唱隊桂冠指揮者の長谷川冴子さんを迎えて世界の合唱についての学習会を開いた。

70周年祭典の中で国際交流の企画についての検討が始まっている。運動全体の中で国際交流の持ち方など今後、検討を進める必要がある。

# 2018年活動方針

9条改憲を許さない歴史的たたかいに連帯し、うたごえ運動の真価を発揮する出番の年に。うたごえ創立70周年をステップに、75周年への橋渡しとなる18年活動方針

うたごえ70周年となる2018年は、安倍政権が目指す憲法9条改定発議への動きと、これを許さない、かつてない広範な国民的共同との

大激突となることが予想される。私たちのまわりでは「4つの止」のほか、止めなければならぬものは消費税、働き方改革押し付け、森友・加計疑惑の隠蔽等々枚挙に暇がないくらいに山積されている。そのような情勢のもと、私たちが歌を通して伝えたいものは、人々の喜びや悲しみを歌の翼に乗せて歌う者、聴く者に感動と勇気を分かち合い、相手の心に寄り添い、思いや願いを実現していくその力となることである。

既に運動としては昨年来始まっている、70周年をステップに5年後に照準をあてた「うたごえ2023ビジョン」計画を成功させるために、本年はその橋渡しとなる運動を構築していくことが必要となっている。

自分たちの思いやまわりの人たちの願いをわが事として、それを歌に託して、さらに運動を広げていくという、うたごえの精神を大きな原動力に、今年も一年大いに憲法の心を歌に託し活動を発展させるため、2018年を以下の活動方針ですすめる。

**方針〈1〉「安倍9条改憲」に反対し、戦争法廃止、辺野古新基地建設阻止、原発停止、核兵器禁止の「4つの止」のたたかいで一致する市民共闘をさらに広げ、連帯しながら「憲法改悪・安倍暴走政権に止（とど）め」につながる運動の一翼としてうたごえを広めよう**

① 「安倍9条改憲NO！全国うたごえアクション」の結成のもと、  
「安倍9条改憲」反対の一点で手をつなぎ戦争法廃止を求める声とともに全国で3000万署名を広げる運動に連帯し、5月までに2万5千人の署名活動を全国津々浦々で進めていく。

● 昨年度目標を達成したヒバクシャ国際署名に本年度も2万5千筆の目標を決めて取り組むとともに、「19日行動」はじめ全国各地での街頭駅前宣伝等を行ううたや音楽で廃止をアピールする。

● サークル・合唱団、協議会で「戦争法に終止符を！音楽人・団体の会」への入会、賛同金の訴え等の取り組みをすすめる。

② 沖縄県民の人権を無視し、名護市民を分断し続けている辺野古新基地建設を阻止するためにも「オール沖縄」のたたかいに連帯する。また、辺野古・高江での座り込み行動など、「沖縄を返せ！うたごえ大行動本部」の取り組みを強化し、全国でも沖縄支援・連帯の取り組みを強める。

● 「オール沖縄Peace Song」ポケット歌集を活用し、うたう会、コンサート等機会あるごとに「沖縄を返せ！うたごえ基金」に取り組むとともに、11月の知事選にむけ翁長雄志知事への激励ハガキや支援の取組みを強める。

● 創作曲で連帯し、支援の輪を広げる。  
③ 東日本大震災被災地への支援を継続し復興・再生、原発ゼロの社会をめざす思いを歌にして広げる。

**方針〈2〉人々の願いと結び、「みんなうたう会」を旺盛に展開し、平和憲法を守り生かす。共に生きる町づくり、地域づくり・職場づくりのうたごえを活発に広げる。**

① 「いつでも、どこでも、うたごえを」を合言葉に、合唱・器楽・和太鼓・民舞等多種多様な形態で大勢の人とともに歌う喜びの機会と場をひろげる。

● 日常の演奏・創造活動を発展させ、平和で健康なうたを普及する。  
● 全市区町村で、多彩なうたう会活動を展開し、創りうたい広げる普及活動を旺盛に展開する。

② すべてのサークル・合唱団は旺盛な演奏普及活動を行い、70周年をステップに75周年にむけた全市区町村での「みんなうたう会」を計画もって実践する。

③ 全国各地で平和コンサートや地域原水協とも協力共同して平和うたう会等を開催し、3・1ビキニデー、平和行進、世界大会につなげてい

く。

方針〈3〉多くの人が「こぞつて歌える」愛唱歌を創りだす創作運動を活発にする。

①「みんなでつくり歌う運動」を広げ、新しい創り手を生み出し創作活動と作品交流を活発にするとともに、創作発表会を開く。

②全国創作講習会を誰もが参加できる内容で成功させる。オリジナルコンサートを充実させるとともに、「オリジナルソングブック」の活用を日常的にすすめる。

方針〈4〉地方、産別、全国とも活発にし、学びあい、創造の高まりをめざす合唱発表会をつくる。

①合唱発表会を協議会活動の年間活動の柱に据え、演奏・講評を通じて交流し学び合うという発表会の原点をいっそう輝かせる。

②新しいところに積極的に呼びかけるとともに、運営に工夫を凝らして豊かな交流ができる合唱発表会をつくる。

③合唱発表会参加団体を1600団体に、未開催県の今年度開催計画を持つ。

④合唱発表会のあり方について小委員会をはじめとした検討をもつ。

方針〈5〉地方祭典の全都道府県開催をめざし、日本のうたごえ祭典の長期開催計画をもつ。

①うたごえを起こし、つながりを広げ、新たな発展をめざす「うたごえ祭典」の役割を輝かせ、地域や都道府県単位、産業別・階層別の祭典を活発にし、祭典運動の前進をめざす。

②「70周年記念日本のうたごえ祭典（仮称）」を地元、全国の連帯で成功させ、19年の京都、滋賀地域での日本のうたごえ祭典を準備する。

③20年以降の開催計画を祭典プロジェクトで検討、案を持つ。

方針〈6〉運動の魅力と人間的魅力が満載されている、「うたごえ発ジャーナル」としてのうたごえ新聞をいっそう輝かせ、歌の広がりとともに読者を常に意識的に広げる。

①「読み、創り、広げる」を合言葉に、紙面の中からたくさん運動財産を学び、創造、組織、普及の力にし、本年度目標達成のため新読者を2000人増やし、次期総会時には過去最高の読者を迎える。

②規模の大小を問わず「うた新フォーラム」などの全国展開を計画する。

③通信活動を活発にし、全国の活動経験を学びあう。

④季刊「日本のうたごえ」は、運動づくりのテキストとしての位置づけを高め、積極的に活用し、会員の全員購読をめざす。新読者を300人増やす。

方針〈7〉演奏・創造・普及活動を旺盛に展開する中で、運動の歴史に学び、運動の理念を受けつぎ発展させる学習・教育活動をすすめる、次代を担うリーダーが育つ環境づくりを計画的にすすめる。

①運動の歴史を引き継ぎ、日常の練習や活動の中で教育活動を重視する。批評活動や運動の理論学習をすすめる前進への力にしていく。

②うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」を学習・教育活動に積極的に活用する。

③各種全国講習会へのサークル・合唱団からの参加を強める。各協議会やブロック等で指揮者・指導者の交流を活発にしそのネットワークづくりをすすめる。

④サークル・合唱団・協議会の次代を担うリーダーづくりの計画をもつ。

⑤ 日本のうたごえ祭典の全国合同企画、「日本のうたごえ合唱団」への参加を強め、創造的連帯の前進をめざす。

⑥ 70周年記念事業として上梓される「うたごえは生きる力 いのち平和 たたかい うたごえ70年の歩み」(高橋正志著)を学習資料として活用を図る。

方針〈8〉青年の要求に応えた音楽づくり、青年サークルづくりを積極的にすすめる、次代を担う青年を迎える。

①サークル・合唱団を新しくつくり、サークル・合唱団員を増やす。

②活動を交流し、学びあう協議会活動をすすめる。

③合唱発表会参加団体や協議会加盟団体を目標を持って計画的に増やしていく。加盟団体500団体をめざす。

④うたごえ協議会のない県の協議会確立を計画を持ってすすめる。現在2サークルある地域は、今年度中の協議会結成をめざす。

方針〈9〉サークル・合唱団をつくり協議会への加盟をよびかけ、うたごえ協議会の強化と建設をすすめる。空白県をなくし、サークル加盟を積極的におしすすめる。地域ブロックの連帯活動を活発にする。

①サークル・合唱団・協議会で、青年・学生とつながる活動や「学びの場」を意識的に持つ。

②仲間づくり、サークルづくりへ、団体・分野を越えたネットワークづくりを強める。

③「全国青年のうたごえ祭典」をおおさか」を青年のうたごえを活性化する場として位置づけ、青年を積極的に送り出し、「70周年記念日本のうたごえ祭典」につなげる。

方針〈10〉うたごえ事業出版物を多くの人々に広める制作と普及、事業活動を旺盛に展開しよう。

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものにし、魅力ある企画制作と旺盛な普及でうたごえの前進の力とする。

●ニューアレンジ合唱曲集「みんなのうた」、「うたごえは生きる力」、「2018メーデー歌集」「オール沖縄Peace Song」など楽譜、文献、CDなどを活用し、多くの人にうたごえを届け、闘いの大きなうねりをつくる。

●みんなうたう会、うたごえ喫茶の活性化や拡大のために、出版物の活用や普及に努める。

●サークルや合唱団の演奏活動と結んだCD、楽譜などを出版し普及する。

②全ての協議会加盟団体で事業活動が取り組めるよう事業部担当をおき、事業普及活動を活発に進める。

③楽譜のネット配信など、インターネットを活用した取り組みをすすめる、新たな層へのうたごえ普及の力にする。

方針〈11〉「郷土のうたと踊り」を旺盛に展開し、専門家との協同、全国講習会の充実、全国の活動の経験交流などを活発にし、まちづくりにつながる活動を計画をもつて進める。

①東西郷土講習会を成功させる

②全国の郷土活動、経験交流などの情報をうたごえ新聞に反映させる

③専門家・保存会との協力関係をすすめる。

方針〈12〉専門家及び他団体との情報交流、協力共同により音楽文化の豊かな発展をめざそう。

①各種合唱講習会、指揮者・指導者講習会はじめ、あらゆる機会をとらえて運動内外の専門家との協力共同をはかり、うたごえの創造的力をたかめる。

②平和・民主団体との交流を強める。

方針へ13）世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる。とりわけ、アジア、世界への視点で70周年をステップに75周年に向かう国際交流の輪をひろげる。

## おわりに

ドイツのヴァイツェッカー元大統領は、1985年5月、世界大戦終戦40周年を記念する演説で「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目になる。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすい」と訴えた。それから30年後、メルケル首相はアウシュビッツ収容所の解放70周年式典で「人道に対する犯罪に時効はない。過去を記憶し続けることは私たちの責務」と述べた。二人の演説に共通するのは深い反省のもと誤った歴史を直視するよう国民に促したことである。

かたやヒトラー時代に同盟国だった日本はどうか。戦後70年首相談話の質疑応答で「どのような行為が侵略になるか否かについては、歴史家の議論に委ねるべき」と答え、日本の「侵略戦争」を決して認めないのがいまの安倍首相である。

戦後日本国は、歴史の反省の上に再び戦争を起こさないことを望み、大勢の日本人の血で購（あがな）われた日本国憲法を誕生させた。9条を何としても死守しなければならぬ理由は、戦後不戦の誓いをたてた日本国の初心であり、理想であり、これに縛られることこそが、日本国民ひとり一人の個人の尊厳と安全の担保であり、ひいては近隣諸国との友好の基礎となり、国際的にも日本の信頼感を確立するに足る大きな力となるからである。

いま歴史を直視することは、9条を守ることである。うたごえ運動も本年70年を迎えるにあたり、創造活動と普及活動を全国で旺盛に展開

していく年にするとともに、あらためて歴史を見つめ、歴史を学ぶ好機としたい。

（うたごえは）『今生きる人々の思い・ねがいを歌・音楽に託して、その音楽の魅力で心をつなぎあい、ねがいを実現するためみんなで大きく歩を進める』運動であり、その魅力と確信を、歴史を記し、さらに切り拓いていく次代に手渡していきたい』。

うたごえ専従として半世紀近く活躍された高橋正志元会長が現場の声を聞き、現場とともに歩み、専門家の協力も得ながら、うたごえ創立前夜から70年の長きにわたってたたためた歴史書が今総会上梓される。その「はじめに」の一文であり、未来への羅針盤となるものである。

『「未来」はいくつもの名前をもっている。弱き者には「不可能」、卑怯者には「わからない」という名。そして勇者と賢人には「理想」という名である』（ピクトル・ユージュ）。

歴史から社会や人間が見えてくる。今年はそのうたごえの歴史に学び、理想を高くかかげ、うたごえの未来を耕していこうではありませんか。

# ◆2018年主な日程予定

◎うたごえ祭典70周年記念日本のうたごえ祭典2019年1月18日  
～20日

〈全国講習会〉

合唱 西日本5月4日(金)～5日(土) 広島・西区民センター 東日  
本5月26日(土)～27日(日) 労音会館。

全国指揮・合唱指導講習会6月8日(金)～10日(日) 松本

郷土 西日本5月5日(土)～6日(日) 兵庫・こうべ輪太鼓センター

東日本6月23日(土)～24日(日) 代々木オリンピックセンター

〈産業・階層別祭典〉

教育のうたごえ祭典8月18日(土)～19日(日) 長崎・いきいき広  
場

保育のうたごえ祭典9月9日(土)

医療のうたごえ祭典9月15日(土)～16日(日) 仙台

自治体のうたごえ祭典9月16日(日) 東京

国鉄&北海道のうたごえ祭典9月22日(土)～23日(日) 函館市芸

術ホール

電通のうたごえ祭典9月29日(土)～30日(日) 小金井宮地楽器ホ  
ール

私鉄のうたごえ祭典11月18日(日) 川越西文化会館(メルト)

青年のうたごえ祭典7月14日(土)～16日(月) 大阪・高槻現代劇  
場